

# 来週の「売り物記事」はこれ



2017年1月6日号

毎日新聞東京本社 編集局・販促宣伝部

## 東京電力福島第1原発事故の賠償費

### 消費者への「ツケ回し」に大疑問

夕刊特集ワイド 10日(火)



誤った経営判断と国策のツケが、国民に押し付けられようとしている？ 経済産業省の有識者会議が昨年暮れ、東京電力福島第1原発事故の賠償費用を大手電力会社だけでなく、新規参入の電力会社（新電力）にも負担させる提言をまとめました。原発を持たない新電力が賠償するのも奇妙な話ですが、負担分は電気料金に上乗せされるので支払いは消費者がさせられるというのです。こんな理屈が通っているのか。あらためて考えます。

## 障害者雇用はいま

くらしナビA面 12日(木)

障害者を雇う企業がなかなか増えません。改正障害者雇用促進法が昨春施行されましたが、障害者の法定雇用率（2%）を守る企業は半分以下の48.8%。多くの障害者を正社員として雇う企業を訪ね、就労がうまくいく背景を探りました。当事者は「障害者と企業それぞれの相談窓口の整備や、国の長期的な助成が必要」と指摘しています。



## エクセレントNPO大賞

くらしナビA面 14日(土)



社会の課題解決に取り組むNPO（非営利組織）を顕彰する「第4回エクセレントNPO大賞」が、福岡市の「SOS子どもの村JAPAN」に決まりました。「すべての子どもに愛ある家庭を」をスローガンに、貧困や虐待などで親と暮らせない子どもたちを福岡市内の5軒の家で養育し、里親制度の普及に力を入れています。活動内容と代表者の声を伝えます。

## 正月明けの鍋

くらしナビA面 10日(火)

年始からごちそう続きで胃が疲れ気味という人も多いのではないのでしょうか。こんな時にうれしいのが、おなかに優しく体も温まる鍋です。作りやすい家庭料理に定評がある料理研究家の大庭英子さんは「鍋は具が多いほど、味が似てしまう」と指摘し、シンプルで少し目先の変わった鍋を提案します。バリエーションが豊かになる作り方を教えてもらいました。



## 女の気持ち「働き方」反響特集

くらしナビA面 11日(水)



新入社員の過労自殺や政府の働き方改革に関心が集まる中、「女の気持ち」で連載した「働き方特集」に多くの反響をいただきました。埼玉県の主婦（68）が「女性が社会で活躍する裏で子供が寂しい思いをしていないか」と問いかけた「これでいいの？」（12月15日付）には共感や疑問、自身の体験を交えた意見が寄せられました。一部を要約して紹介します。



漫画家の吉田戦車さん・伊藤理佐さん夫妻を招いた「おかん飯」正月スペシャル第2弾。3日に掲載した吉田さんの得意料理「メンマのつまみ」と「パン粉炒め」は、従来の料理の概念を覆すほどの簡単メニューで衝撃的でした。今回は伊藤さんが持ち込んだ「ピータン豆腐」と「春菊の炒め煮」です。フライパンに油も引かないシンプルさで、楽しい会話が弾みます。



## 支援の担い手を応援する新コーナー

医療・福祉面 11日（水）



昨年、社会に衝撃を与えた相模原市の障害者施設殺傷事件。元職員が入所者を殺害する痛ましい事件でしたが、介護や福祉、医療などの現場では、誇りとやりがいを持って当事者を支えている人たちが大勢います。これからの担う世代の奮闘を紹介する新コーナー「Stand by you! そばにいるよ」がスタートします。初回はワイド版として、有料老人ホームで働く介護福祉士（32）、障害者支援に取り組むNPO法人代表（40）、児童相談所の委託で血縁のない3人の子を育てる里親（39）の女性を取り上げます。

## 18歳、それとも20歳……「成人」は何歳から？

オピニオン面 [論点] 11日（水）

「二十歳」と書いて「はたち」と読む日本の文化が変わるかもしれません。成人年齢を20歳から18歳に引き下げる民法改正に向けて、通常国会で議論が始まる見通しだからです。世界を見渡せば18歳以上を成人する国々が多いようです。けれども法務省の意見集約では、成人年齢の引き下げへの慎重論が多数を占めました。「大人になる」という意味を改めて考えました。



時代が見える——。オピニオン面にご期待ください。

今年もよろしくお願ひいたします

